



学 会 通 信

第 86 号

2018 年 5 月 23 日発行

## 目次

2018 年度第 25 回日本教育メディア学会年次大会ご案内【1次案内】	2
ICoME2018 ご案内	5
2017 年度第 2 回研究委員会 研究会報告	8
2018 年度第 1 回研究委員会 研究会ご案内	9
2018 年度第 1 回企画委員会 ワークショップご案内	10
理事会議事録	11
第 9 期会長・理事選挙の告示	13
ICoME Journal	14
論文投稿のご案内	14
学会費納入のお願い、入会者・退会者	15

---

---

## 2018年度 第25回日本教育メディア学会年次大会ご案内【1次案内】

---

年次大会委員会 委員長：中川一史（放送大）、副委員長：中橋雄（武蔵大）、山本朋弘（鹿児島大）  
大会実行委員会 委員長：山本朋弘（鹿児島大）、副委員長：辻慎一郎（薩摩川内中央中）

### 1. 日時と場所

2018年11月24日（土）、25日（日）

鹿児島大学教育学部 第1講義棟・第2講義棟

### 2. 大会プログラム

#### 11月24日（土）会場：鹿児島大学教育学部

- 9:30～ 受付
- 10:00～11:30 地元企画：公開授業と振り返り  
授業者：伊藤優一郎（鹿児島大学教育学部附属小学校）  
小学校2年算数 単元未定  
司会：中川一史（放送大学）  
コメンテータ：佐藤幸江（金沢星稷大学）
- 11:30～12:30 昼食
- 12:30～13:20 総会
- 13:30～15:30 一般研究発表（1件あたり30分発表）※質疑と交代を含む
- 15:45～17:00 鼎談『教育メディアのこれまでと展望』（仮）  
登壇者：堀田博史（園田学園女子大学）、黒上晴夫（関西大学）、  
宇治橋祐之（NHK放送文化研究所）
- 17:30～19:30 懇親会（教育学部食堂エデュカを予定）

#### 11月25日（日）会場：鹿児島大学教育学部

- 9:30～11:30 課題研究発表
- 11:30～12:30 昼食
- 12:30～14:30 一般研究発表（1件あたり30分発表）※質疑と交代を含む
- 15:00～16:20 シンポジウム『新学習指導要領における教育の情報化の展開』（仮）  
登壇者：安彦広斉（文部科学省）、稲垣忠（東北学院大学）、  
鹿児島県内の教育委員会担当者、鹿児島県内の小中高教員  
コーディネータ：山本朋弘（鹿児島大学）

### 3. 参加申し込み

- ・参加申し込みは、昨年通り、以下の内容とする。

会員 3000 円（事前）、4000 円（当日）

学生会員 1000 円（事前）、2000 円（当日）

非会員 4000 円（事前）、5000 円（当日）

※ただし、非会員の現職教員は無料

学生非会員 2000 円（事前）、3000 円（当日）

懇親会 5000 円（学生 3000 円）

#### 4. 大会までのスケジュール

- ・5月中旬発行のニュースレター

シンポジウムテーマと登壇者、課題研究テーマとコーディネータを掲載（86号）。

- ・課題研究プロポーザル（要旨）の申し込み期間

2018年 6月 18日（月）～ 7月 16日（月）。採否通知は8月上旬頃におこなう予定。

- ・課題研究原稿提出締切 2018 年 9月 30日（日）

- ・一般研究募集

原稿提出期間 2018 年 8月 15日（水）～9月 30日（日）

- ・7月下旬発行のニュースレター（87号）

年次大会の日程、年次大会参加費等

- ・10月下旬発行のニュースレター（88号）

年次大会の日程、プログラムの詳細

#### 5. 課題研究プログラム

##### 1) 情報活用能力の育成に資するメディアを活用した教育実践

コーディネータ：前田康裕（熊本大学）、小林祐紀（茨城大学）

概要：新学習指導要領において、情報活用能力が言語能力と同じく「学習の基盤となる資質・能力」と示され、各教科を横断する形で重要な能力であることが明記された。また、小学校ではプログラミング教育の必修化がされ、小学校学習指導要領の総則への記述が確認できることから、様々な学年・教科等での教育実践が求められている。情報活用能力の育成に資する教育実践の重要性は、ますます高まっている。そこで本課題研究では、情報活用能力の育成に資するメディアを活用した教育実践に関する発表を広く募集する。小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・大学等の教育実践に関わる者が交流し、幅広い視点からテーマについて議論できることを期待する。なお本課題研究では、メディアはICTだけではなく、幅広い概念として用いることとする。

##### 2) 教員養成、教員研修での教育メディア研究の今～知見の蓄積に向けた体制整備を考える～

コーディネータ：小柳和喜雄（奈良教育大学）、寺嶋浩介（大阪教育大学）

概要：これまでも教育メディアを活用した取組を通じて、未来の創り手となるために必要な資質・能力、例えば学習の基盤としての情報活用能力、メディア・リテラシーなどを育成しようとする様々な取組が、教員養成、教員研修で行われてきた。しかしながら、その取組をどのように整理し、共有できる知見として表現していくかに関わって、伝統的な研究手法による手続きが壁となり、貴重な研究成果が

表に出ない場合もあった。本課題研究では、教員養成・教員研修の現場で、教育メディアを内容としてとらえ教える工夫、教育メディアを方法・道具としてとらえ、それを用いて教える工夫などについて、その持ち味を活かした研究知見を表現し、蓄積していく上で、何が壁か、何が必要となるのかを論議していく。

### 3) 最先端のメディア研究

コーディネータ：青木浩幸（国際基督教大学）、工藤雅之（藤女子大学）

概要：最先端技術の登場や新たなトピックの創造により、教育におけるメディア利用は発展を遂げてきた。近年関心を集める最先端技術には、プログラミング的思考、VR/AR、ゲーミフィケーション、AIとロボット、ビッグデータ、MOOCsやOER等が挙げられる。これらの教育における意味を理解し実用化を図るには、新たな観点や柔軟な発想が必要である。本課題研究ではそのような実用化の壁を破るきっかけを得られるような議論を行いたい。未完成であっても構わない。最先端のメディア利用に関する斬新な研究アイデアを募集する。

### 4) 次期学習指導要領におけるメディア・リテラシー教育

コーディネータ：後藤康志（新潟大学）、佐藤和紀（常葉大学）

概要：初等・中等教育において2020年以降順次全面実施される次期学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」を実現させることが目指されている。社会と向き合い関わり合うためには、意図をもって構成されるメディアの特性を踏まえて、そのあり方を考える学習活動が不可欠となる。近年、ポスト・トゥールース時代と言われるように、社会とメディアを取り巻く状況が、複雑さを増している中で、メディア・リテラシー教育に関する実践・研究もひとつの転換期を迎えているといえる。そのあり方について議論することには、意義がある。こうした課題に対する研究発表を会員から募り、議論を深めたい。

## 6. その他

- ・論集は pdf のみとする。申し込み者に直接連絡する。
- ・企業展示について、今年度も昨年度に引き続き行わない。
- ・学会 Web にて、2日間の大会プログラム・スケジュールを公開する。
- ・大会参加事前申し込みは、7月下旬のニューズレター発行後、電子メールで期限を設けて受け付ける。申し込みに合わせて、事前振り込みを開設した銀行口座に振り込んでもらい、それを照合する形で進める。
- ・理事会は、11月23日（金）15:00～18:00、鹿児島大学教育学部内で実施する。

---

## ICoME2018 ご案内

---

### ★Invitation (ICoME2018 のご案内)

For decades, the International Conference for Media in Education (ICoME) has been the center to offer discussion and to conduct research in the form of media application for educational and training settings. We proudly invite you to attend ICoME and submit papers and innovative media applications, and also share your expertise via workshops.

This year's conference theme is to open the discussion of advancing learning experience with emerging technologies. Through the conference, we would like to collect ideas and research to lead our learners' experience forward for better learning. It could be relatively easy to introduce new media; but it is our primary mission to properly apply the technologies with pedagogical value. ICoME 2018 will bring you new perspectives to implement the newest technologies for learning and training.

★詳細はウェブページをご覧ください。

Website: <http://www.icome.media>

★連絡先はこちらです。

Email: [icome.submit@gmail.com](mailto:icome.submit@gmail.com)

★Chair of Organizing Committee (ICoME2018 の主催者)

Dr. Jeeheon Ryu ([jeeheon@jnu.ac.kr](mailto:jeeheon@jnu.ac.kr)) Chonnam National University, South Korea)

★Keynote Speaker (特別講演)

Dr. Michael H. Molenda

Dr. Michael H. Molenda taught in the Department of Instructional Systems Technology at Indiana University Bloomington, USA from 1972 to 2005. As an associate professor emeritus, he continues to do research and writing. He is co-author of the first five editions of Instructional Media and the New Technologies of Instruction and co-editor of AECT's 2008 definition book, Educational Technology: A Definition with Commentary (as well as being author or co-author of five chapters in the book). He has written numerous other encyclopedia articles on educational technology topics. He is currently preparing a book, The Elements of Instruction: Building Blocks of Lesson Design, for Taylor & Francis Publishers.

★Important dates (原稿提出までの流れ)

- May 7: First call for submission

- May 16: Notification of first call
- June 1: Second call for submission
- June 10: Notification of second call
- July 1: Paper submission

★Conference topics (募集する発表テーマ)

- Emerging technologies for learning and teaching
- Innovations in educational reform and policy
- Advancing teacher education and educational training
- Online and distance learning for all
- Social network and digital communities
- Design theories and principles for educational media
- Others

★Presentation categories (発表区分)

- Concurrent Presentation: 25~30 minutes  
It requires 6~8-pages length for a full paper format. Applicants of this presentation should submit a one-page submission form. Some presentations may be considered to be published in the International Journal for Educational Media and Technology.
- Roundtable: 50-minute session  
It requires 3-pages length for a full paper format. Each session includes multiples tables with audience. Professionals and students are encouraged to participate for dynamic discussion. Applicants of this presentation should submit a one-page submission form.
- Student poster: 2-hours session (Young scholar award will be given)  
The presentation requires 2-pages length full paper format. Students are encouraged to participate to this session. This session requires a printed poster with research result for presentation. Collaborative research with a major professor are welcome, but a student should be a first author. Applicants of this presentation should submit a one-page submission form.
- Media festival: Showcase (Media developer award will be given)  
New presentation category of ICoME – Students can participate with their own media application. They may apply for either a printed material or computer based format track. Team work is also recommended, but one person can apply for only one team. Applicants of media festival should submit a proposal application form. No paper submission is required.

★Conference schedule at a glance (会期中スケジュール)

- Wednesday, August 15

- Check-in and onsite registration
- Orientation for the first comer
- Thursday, August 16
  - Onsite registration
  - Keynote speech
  - Sessions
  - Happy hours
- Friday, August 17
  - Onsite registration
  - Sessions
  - Young scholar awards / Media awards o Closing dinner
- Saturday, August 18
  - Cultural tour and social event (optional)

★上記の情報に関して、下記のリンクから PDF をダウンロードできます。

Please download the PDF file about the above information

[http://jaems.jp/wp-content/uploads/2018/04/ICoME\\_2018\\_CFP.pdf](http://jaems.jp/wp-content/uploads/2018/04/ICoME_2018_CFP.pdf)

★日時：2018年8月15日（水）- 18日（土）

★場所：CHUNGBUK NATIONAL UNIVERSITY, Cheongju 韓国

★参加費：一般 100,000 ウォン（日本円で 10,000 円程度） 学生 30,000 ウォン（日本円で 3,000 程度）

（予定） ※参加費は、受付にて現地通過でお支払いください

★発表形態：Concurrent Presentation, Roundtable, Student poster, Media festival

★今年度のラウンドテーブルは、個別に 20-50 分プレゼンテーションしながら、研究方法などのアイデアを集めるものです。学生の発表は Student Poster をお勧めします。（Young Scholar Award 対象トラック）

※ 詳細はコチラ <https://www.icome.media/presentation-categories>

---

## 2017年度 第2回研究委員会 研究会報告

---

2017年度第2回研究会が、創価大学にて2018年3月3日(土)に開催されました。今回も昨年に引き続き、日本教育工学会研究会と並行して開催され、2研究会合計で200人以上の参加者となりました。また、日本教育メディア学会研究会としては、合計で19件(午前:2会場、午後:2会場)の研究発表が行われました。これらの研究を収録した報告集の購入数も80冊に達しました。



今回の研究会のテーマは、「ICTを活用したアクティブ・ラーニングの実践と評価/一般」でした。新学習指導要領では、主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)を実現するための視点に立った授業改善が求められています。また、それらの学びの過程でICTを活用することも効果的であるとされています。実際にどのような実践が行われ、どのような評価がなされているかを幅広く考えながら、将来の実践や研究の方向性を探究する場としたいと考えました。今回ご発表いただきました研究は、このアクティブ・ラーニングに関する研究をはじめ、メディア利用やメディア・リテラシーに関する研究、情報モラル教育、プログラミング教育など幅広いテーマの発表があり、対象者も幼児教育から高等教育までにわたるものでした。それぞれのご発表に対して、活発なご発言をいただき、様々な視点での多様な見解を得られる有益な時間となりました。

さらに、今回は他学会の研究会との並行開催ということもあって、研究発表を中心に参加者の交流も積極的に行われました。研究会の開催に際してご尽力いただきました日本教育工学会研究会の関係者の皆様へ感謝申し上げます。また、参加者・発表者の皆様におかれましても、研究の今後に役立つ有意義な時間になっていたら幸いです。改めて、本研究会にご参加いただきました皆様に深く御礼を申し上げます。



(文責: 愛知教育大学 梅田恭子)

---

## 2018年度 第1回研究委員会 研究会ご案内

---

2018年度第1回研究会の発表・参加者募集のご案内

テーマ：地域・情報・文化をつなぐ学びと教育メディア／一般

学習指導要領の改訂から1年が経ちました。教育関係者はそれぞれの立場から、新指導要領の趣旨にどう接近するかを日々議論されていることでしょう。今回の改訂では、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善や「資質・能力の育成」などを通して、「社会に開かれた教育課程」の実現が目指されています。今まで以上に、学校と地域との関係づくりが重要になるといえます。

子ども・教師を学びの場に誘うICT教材、地域の特色を伝える博物館・美術館・図書館等、種々の教育資源を横断的にマネジメントすることが求められています。このような立場間、題材・領域間、組織間の課題を、何を使ってどのように扱えばよいのか。そこに「教育メディア研究」の方法論を、どう反映させられるのか。いずれも本学会の守備範囲として、学習指導要領の改訂を好機に検討したい話題です。そこで今回は、地域と教育の関わりについて、教育メディア研究のアンクルからの実践報告、研究報告を募集いたします。その他、本学会が通常テーマとする話題についても、併せて募集しております。多数のご参加、ご発表をお待ちしております。

※なお、当日は企画委員会によるイベントが同会場にて開催予定です。あわせてご参加下さい。

日付：7月8日（日）

会場：はこだてみらい館

<http://hakodate-miraiproject.jp/miraikan/>

発表申込み締め切り：5月27日（日）以下のURLのWebフォームよりお申し込みください。

<http://jaems.jp/meeting/>

原稿締め切り：6月10日（日）

メールにてご提出いただきます。

本研究会に関する問い合わせ先：[jaemsstudy@gmail.com](mailto:jaemsstudy@gmail.com)

---

## 2018年度 第1回企画委員会 ワークショップご案内

---

第1回企画委員会 企画ワークショップ 「プログラミング教育のあり方を探る」

企画責任者：佐藤幸江（金沢星稷大学）

長谷川透（パナソニック教育財団）

### ○趣旨

小学校段階におけるプログラミング教育の必修化を巡って、教育現場等から目的の明確化や内容の充実を求める声が上がっています。本学会だけではなく、様々な研究会等でもプログラミング教育をテーマに多様な研究活動を行う現状が見られます。そのような中で、文部科学省においては、2016年6月に「小学校段階におけるプログラミング教育の在り方について」、2018年3月に「小学校プログラミング教育の手引（第一版）」を取りまとめました。けれども、単に小学校におけるプログラミング教育を考えるのではなく、小・中・高の縦のつながりの中で、その必要性や内容を考えていく必要があるのではないのでしょうか。

中学校では2012年度から技術・家庭科の「プログラムによる計測・制御」という内容が必修になり、中学生全員がプログラムを学ぶようになっていました。高校では情報科でプログラミングが扱われています。情報科には「社会と情報」と「情報の科学」の2科目があり、プログラミングは「情報の科学」で必修となっています。本企画委員会では、このような小・中・高の縦のつながりの中で、改めて「プログラミング教育の必要性」「プログラミング教育の具体例」「小学校段階におけるプログラミング教育の導入に当たっての課題」を、各方面からの提案を受けて再考したいと考え、本ワークショップのテーマを設定しました。

○日時：7月8日（日）

9:30 受付

9:40~9:50 趣旨説明

9:50~11:20 各方面からの提案

小学校：清水 匠（茨城大学附属小学校）

中学校：郡司直孝（北海道教育大学附属函館中学校）

高等学校：永野 直（前：千葉県立袖ヶ浦高等学校、現：千葉県総合教育センター）

研究者：稲垣 忠（東北学院大学）

コーディネーター：中川一史（放送大学）

11:30~12:00 グループディスカッション

12:00~12:15 シェアタイム

12:15~12:30 まとめ

○会場

はこだてみらい館 <http://hakodate-miraiproject.jp/miraikan/>

---

# 理事会議事録

---

## 第8期 第6回理事会 議事録

[日 時] 2018年4月21日(土) 13:00-16:00

[場 所] 東京(品川インターシティ)、大阪(新大阪丸ビル新館) 2会場をテレビ会議で結び実施

[出席者] 会長、理事17名、委任状(議長に委任)8名、監事1名

会長 大阪: 黒上晴夫

理事 東京: 宇治橋祐之、浦野弘、岸磨貴子、後藤康志、鄭仁星、佐藤慎一、  
中川一史、中橋雄、長谷川透、村野井 均

大阪: 浅井和行、小柳和喜雄、影戸誠、久保田賢一、寺嶋浩介、永田智子、村上正行

欠席(議長に委任): 稲垣忠、佐藤幸江、鈴木克明、堀田博史、堀田龍也、山本朋弘、  
林向達、渡辺雄貴

監事 東京: 佐々木輝美、欠席: 生田孝至

事務局 東京: 山本良太、大阪: 泰山裕

### <審議・報告事項>

(1) 入会者・退会者・除籍者について(事務局) 【資料1】

事務局長から、前回理事会以降の入会者・退会者・除籍者について説明があり、審議の結果承認された。

(2) 2017年度事業報告・2018年度事業計画について(事務局) 【資料2-1, 2-2】

事務局長から、「2017年度事業報告・2018年度事業計画案」が示され、審議の結果承認された。

(3) 団体会員規定について(事務局)

団体会員規定について議論され、次回理事会において事務局案を提案することとなった。

(4) 次期会長および理事選挙について(会長・事務局)

事務局長から選挙管理委員会の開催について報告された。

その後、次期会長の理事会推薦者について審議され、承認された。

(5) 年次大会の内容、参加費等について(年次大会委員会) 【資料3】

年次大会委員長からシンポジウム・基調講演・課題研究、共催の計画が提案された。審議の結果、公開授業・シンポジウム・基調講演のテーマ、登壇予定者は原案通り承認され、課題研究については4つのテーマについて開催する計画が承認された。大会参加費については、昨年度と同様にする旨が確認された。

(6) 編集委員会（国際担当） 【資料 4-1, 4-2】

編集委員会（国際担当）副委員長から、日本教育工学会、教育システム情報学会との合同英文誌の発行について検討している旨報告された。審議の結果、ICoME2018 の際に議論ができるよう準備を進めることとなった。

(7) 研究委員会（国内担当）【資料 5】

研究委員会（国内担当）副委員長から、2017 年度研究会の開催と、および 2018 年度研究会の開催日程・場所について報告された。

(8) 研究委員会（国際担当） 【資料 6】

研究委員会（国際担当）委員長から、ICoME2018 開催に関する進捗状況について報告がなされた。

(9) 企画委員会 【資料 7-1, 7-2】

企画委員会副委員長から、今年度の計画について報告がなされた。

(10) 学会通信 台割案について（広報委員会） 【資料 8】

広報委員会委員長から今後の学会通信（86～89 号まで）の台割案について提案がなされ、審議の結果承認された。ただし、研究会などの開催日程により記事掲載予定号が変更になる場合があることが確認された。

(11) 名誉会員の推薦について（事務局長） 【資料 9】

事務局長から生田孝至会員の名誉会員への推薦があり、審議の結果承認された。

(12) その他

・日本教育工学会からの依頼について【資料 10】

日本教育工学会から EDU-Port コンソーシアムへの参加依頼があり、これを承認した。

・次回理事会開催について

11 月 23 日（金）午後、鹿児島大学にて開催（第 8 期最終）

以上

---

## 第 9 期会長・理事選挙の告示について

---

### 第 9 期会長・理事選挙の告示について

選挙管理委員会 中川一史（委員長）、宇治橋祐之、中橋雄

第 8 期会長・理事の任期満了にともない、下記の選挙手続きおよび日程で第 9 期会長・理事選挙を行います。

2018 年 4 月 21 日（土）：選挙管理委員会開催

2018 年 5 月 1 日（火）：選挙告示

2018 年 5 月 15 日（火）：メールによる公募案内

2018 年 6 月 1 日（金）～6 月 15 日（金）：公募受付期間（郵送）

2018 年 7 月 2 日（月）：メールによる会長・理事選挙案内

2018 年 7 月 2 日（月）～7 月 17 日（火）：投票期間（電子投票システムを活用）

2018 年 7 月 18 日（水）～7 月 24 日（火）：開票と委員会による確認

以上

---

---

## The International Journal of Educational Media and Technology (ICoME Journal)

---

編集委員会（国際ジャーナル／佐藤慎一：日本福祉大学）

■The International Journal of Educational Media and Technology (ICoME Journal)

第 11 巻 2 号が 2017 年 12 月に出版されました。著者およびレビュワーの皆様へ感謝します。以下のウェブサイトをご参照してください。

<http://jaems.jp/contents/icomelj/icomelj.html>

---

---

### 論文投稿のご案内

---

編集委員会（委員長／鈴木克明：熊本大学）

〆切：随時

『教育メディア研究』では、一般論文を広く募集しています。〆切は特にありません。随時受け付け、その都度、査読プロセスを始めています。多くの会員の方からの投稿を期待しています。

---

## 学会費納入のお願い、入会者・退会者

---

### ◆ 学会費納入のお願い ◆

<納入のお願い>

2018年度（2018年4月1日から2019年3月31日）の年会費（正会員7,000円、学生会員4,000円）が未納の方は、下記口座にお振り込みいただくようお願いいたします。

<送金先>

銀行名：ゆうちょ銀行 種目：普通 店番：418 店名：四一八店（ヨンイチハチ店） 口座番号：0865850 名義：日本教育メディア学会（ニホンキョウイクメディアガクカイ）
--

- ※ 振込手数料は、ご負担ください。ゆうちょ銀行口座からATMを使って納入いただく場合、手数料は無料です。
- ※ ご自身のゆうちょ銀行口座以外から振り込む場合は、振込人名義を「学会名簿に登録した会員氏名」にして下さい。それが出来ない場合は振込後、事務局にメールでご連絡ください。
- ※ 過年度年会費をまとめて振り込む場合には、学会事務局にご連絡ください。
- ※ 学生会員は、学生・大学院生（社会人学生を除く）です。会費納入に併せて学生証などの証明書類を事務局宛に提出してください（スキャナ、デジタルカメラ等で取り込んだデータのメール添付でも受け付けます）。

### ◆ 登録情報更新のお願い ◆

本学会では、「学会通信」および重要なお知らせを電子メールで会員に配信しております。また、学会論文誌「教育メディア研究」を郵送しております。これらを確実にお届けするために、学会からのメール・学会論文誌が届いていない方は、事務局までメールアドレス、お届け先住所の情報をお送りくださるよう、よろしくお願いいたします。

### 【入会者・退会者】※敬称略

新入会員・正会員（5名）・・・岩佐 玲子、國分 麻里、東平 福美、青木 浩幸、  
工藤 雅之

新入会員・学生会員（2名）・・・渡邊 菜月、科 瑤、竹上 瑞穂

退会者 ・正会員（5名）・・・今田 晃一、小田 茂一、宗岡 徹、川本 佳代、  
奥林 泰一郎

退会者 ・学生会員（1名）・・・水野 萌

会員種別変更（2名）・・・長濱 澄、古賀 俊哉

**【除籍者】**※敬称略

正会員

影山貴彦、竹内慎一、林直哉、広瀬洋子、山西潤一、吉江森男、江守恒明、平石冬樹、近藤睦、芝田成輝

学生会員

田渕敬光、相川弓映、西澤寛奈、山根夕佳

会費滞納に関する取り扱いを定めております会則第9条の改正が承認されました。改正された規定では、会費滞納の会員に対する扱いについて以下のように定めております。

会費の納入状況についてご不明な点がありましたら、事務局（[office@jaems.jp](mailto:office@jaems.jp)）までご連絡ください。

-----  
第9条

会員の会費の滞納による除籍については、以下のように定める。

(1) 正会員、学生会員、団体会員ならびに購読会員が、会費を3年間滞納したとき、その年度末をもって除籍され、会員の資格を喪失する。

(2) 除籍された元会員が再入会するとき、滞納会費の納入を要する。

-----

会員総数 361名・17団体

名誉会員：3名

正会員：309名

学生会員：37名

団体会員：6団体

購読会員：11団体

(平成30年5月10日現在)

<b>日本教育メディア学会 事務局</b>	<b>広報委員会</b>
〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀町4-88 大阪教育大学 寺嶋浩介 研究室内 E-mail : <a href="mailto:office@jaems.jp">office@jaems.jp</a> 学会ホームページ URL : <a href="http://jaems.jp/">http://jaems.jp/</a>	委員長 後藤康志 (新潟大学) 副委員長 渡辺 雄貴 (東京工業大学) 委員 岩崎千晶 (関西大学) 井ノ上憲司 (大阪大学) 遠海友紀 (京都外国語大学)